



護持会総会報告
 報恩講
 子供会報告
 十月二十三日(土)午後一時動修
 詳細は一頁
 詳細は二頁
 詳細は四頁



住職法話

光照寺寺報
 発行所
 真宗大谷派 弘興山
 宗教法人光照寺
 〒331-0821
 さいたま市北区別所町102-2
 電話：048-651-2781(代)
 FAX：048-651-2753
 E-mail
 yasuragi@beige.ocn.ne.jp
 ホームページ
 http://koshoji76.jp
 発行人 住職 池田孝三郎



お盆法要



お盆法要

護持会総会報告

淡海雅子

二〇二〇年度 第二十二回光
寺護持会総会が六月十三日十三時
から光照寺本堂においてコロナ感
染予防に留意して開会されました。

勤行(嘆仏傷)に引き続き
『蓮如上人御一代記聞書』より
「涯分、心の方を嗜み申すべきこと
なり」の講題でいずみ会館館主
佐々木玄吾師にご話いただきました。
開催となりました。根源的の自己を
認識して如来の前に懺悔する。真
に聞き開いたものは「念々称名常
懺悔」。わが心根に目覚めたものは
念仏申すということにほかなら
いと聞かせていただきました。

佐々木師へ長年のご貢献に対し
て感謝状と記念品の授与がありま
した。ズーム配信は初めての試み
でしたが皆様が一体となって聴聞
することができました。

総会に際し、会長とご住職様の
挨拶がありました。昨年に引き続
いてコロナ感染がおさまらない中
での総会であり、護持会活動が制
限された旨ご報告がありました。

した。前坊守様が会計を、南袈裟雄
氏が会計監査を退任して庶務に就
任されました。また、新たに山田亘
子氏、大間教位氏、久松真弓氏が庶
務に就任されました。その他の役
員は留任となりました。

前年度の護持会の活動実績及
び、護持会の収支決算と監査の報
告、今年度の活動計画案及び、今年
度の収支予算案が提案され、何れ
も原案通り可決承認されました。

ご住職様より聞法会の紹介と参
加の呼びかけがありました。光
照寺の旅行はコロナ感染がおさま
るまで見合わせます。大塚氏より子
ども会の紹介と、前坊守様より子
供だけでなく皆様もご参加くださ
いとお誘いがありました。

「東本願寺のなりたち(教如上



オンライン聴聞の様子

人」が絵解きサークルにより解説
されました。戦国時代の騒乱の中
で本願寺がどのようにして親鸞聖
人の教えを守り抜いてきたのかそ
のご苦勞を歴史上で再認識させて
いただきました。また本願寺が東
西本願寺として分離された経緯を
わかりやすく解説いただきました。

最後に全員で仏教讃歌「恩徳讃」
を唱和し、閉会いたしました。
今後とも皆様方のご支援、ご協
力をお願い申し上げます。



佐々木先生へ感謝状授与



佐々木先生ご法話



総会



真宗クイズ



絵解き発表

報 恩 講

- ・10月23日(土)
- ・午後1時～3時頃(来寺12時30分受付)
(オンライン12時30分入室可)
- ・場所 光照寺本堂
- ・法要勤修
- ・法話 本明 義樹先生
(大谷大学専任講師<真宗学>・京都教区専光寺住職)
- ・講題 「聞思して遅慮することなかれ」

プロフィール:

1972年生まれ。大谷大学大学院博士課程満期退学。大谷大学聖教編纂室にて坂東本『教行信証』等の翻刻事業に従事する。真宗大谷派教学研究所研究員、真宗大谷派聖教編纂室主任編纂研究員を経て、現在、大谷大学専任講師。博士(文学)。

先生よりメッセージ:

「宗祖は私たちに「聞思して遅慮することなかれ」と願われています。改めてその願いを受けとめ直し、聞法の意義を尋ねることを通して、真宗門徒としての歩みを確かめたいと思います。」

●先生の書著:

論文に「親鸞における本願力回向開頭の意義—坂東本『教行信証』を精読して」など多数。

※準備の都合上、出席の際は、10月16日前にはお寺にご連絡下さい。

- 午後 12:30 受付
- 1:00 勤行
- 1:40 住職挨拶
- 1:45 法話
- 3:00 終了予定

報 恩 講

【報恩講は宗祖、親鸞聖人のご恩徳に報謝し、いのちの道理を深く尋ねる法要で、一年の中で最も大切な仏事です。真宗門徒として必ず勤める法要であり、光照寺の今年度最後の大きい法要ですので是非ともご参詣下さい。】

本年は昨年引き続き本明義樹先生(大谷大学専任講師・京都教区専光寺住職)より、京都からオンラ

インにてご法話を頂戴して報恩講を勤修致します。午後から開催となります。
お寺に来寺されて法要参加、又はオンラインにて参加をご選択下さい。オンラインの方はメールアドレスをお知らせ下さい。ご家族、縁者お誘い合わせの上、ご参詣をお待ちしております。

住職(釋徹照)

ひと ち 歎異抄

羅漢:「念仏者は無碍の一道なり。」
第7章



「諸善もおよぶことなきゆえに、無碍の一道なり。」

川越喜多院の五百羅漢

子供会報告

光照寺子ども会。ポニークラブ。
外遊び（水遊び）

大塚 陽子

盛夏の八月一日（日）午後一時、お寺にて子ども七名大人十三名の参加により子ども会を行いました。住職の勤行、前坊守あいさつ、初参加の親子もあり、自己紹介をしたり、替え歌を歌った後、「ぼくはいまここにいる」佐賀枝夏文作を私が読み聞かせ、お話の後、南の聖地にて、プールで水遊びをしました。その後、すいか割りをし、すいかを切って皆んなでおいしくいただきました。着替えた後、久松さんに手遊びや絵本を読んでもいただきました。そして、最後恩徳讃をしました。暑い中、子ども達が水遊びを通してお互いにふれ合う中で自然とけ込んで楽しく遊んでいるのが印象的でした。

今回は、十二月二十五日（土）を予定しております。ご参加お待ちしております。





寺ヨガ

お寺でヨガを毎週月曜十時〜十一時開催しています。インストラクターはトモヨさん。南インドの先生より古典ヨガを習得。初めての方も歓迎です。ご興味の方は当寺までお問い合わせ下さい。

真の依り処

仏様はいらっしゃいますか？
どんなお顔でどんな姿をされていますか？
又その佛様とどんな会話されていますか？
よく自分と向き合いお念佛申してしましたらきつとまぶたの奥に見えたり耳の底から聞えたりするものがあります。毎日常かさず仏様をご供養（お花お香を焚く）懺悔（申し訳ない）讚嘆（感謝）朝夕行い又聞法をする。私はコロナ禍真つ直中ですが大変便利なZOOMのお陰で北は北海道九州大阪三重東京から配信して頂き感動させて頂いています。又ライブではいつでも聞きたい時に聞かせて頂けますし嘆いてばかりじゃありません、本当に暇がありません愚かな私がこの娑婆に生かされているのですから。信心とは真の主体と歩む信であり一念の反復にきまると学ばせていただいています。

南無阿弥陀佛
岡田 ノリ子

鈴の音

ひとたびも ほとけをたのむ
こころこそ まことののりに
かなうみちなれ

蓮如上人
（御文より）

お知らせ

— 寺務所より —

新型コロナウイルスに関して

● 新型コロナウイルス感染症予防・拡大防止に伴い、予定されている行事は状況により、中止又は変更がありますのでご承知下さい。随時HPをご確認頂くかお問い合わせ下さい。個別のご法事、お葬儀はお参りさせて頂きます。

● 法要のご案内

● 報恩講

十月二十三日(土)午後一時より勤修。講師は本明義樹先生(大谷大学専任講師・専光寺住職)コロナを鑑みて、午後よりオンライン同時開催としました。

● 修正会

二〇二二年一月一日元旦、午後一時より勤修。新年を阿弥陀如来のご尊前より出発致しますよう。

● 親鸞聖人のみ教えに聞く会は休会

講師は延塚知道先生(大谷大学名誉教授)

● 大経の会

十月は報恩講、十一月二十一日、十二月十三日。午前十時～午後三時。講師は佐々木師と住職の担当月別。細川巖著『正信偈讃仰』(七)を学んでいます。お弁当持参して下さい。変更もあります。

● 我聞の会

十月十五日、十一月八日、十二月二日。午後二時～四時。講師は住職。

● 歎異抄を学んでいます。

● 微風学舎

十月二十八日、十一月二十六日、十

二月六日。午後二時～四時。講師は住職。「高僧和讃講義(二)」延塚知道著を学んでいます。

● 眞宗に学ぶつどい

十二月三日、午後一時三十分～四時。会場は一心寺、講師は一條顕良氏。

● 寺ヨガ

お寺でヨガ。毎週月曜十時～十一時、講師トモヨ先生。興味ある方はお問い合わせ下さい。

● お願ひ

ご自宅で法事の際は駐車場をご用意下さい。マスク着用と換気を宜しくお願ひします。住所・電話番号変更の際は必ずご連絡下さい。

俳句・川柳

吉澤 光昭

一筋の潮目はるかに月清し
たとう紙の手ざわり久し秋日和
秋すだれセピア色した風抜ける
縁側は遠くなりけり衣被
遅れ来し言訊聞くもうそ寒し

山田 恒

米寿です未だ門が外せない
八・二五食花夢のない記憶

短歌(詩)

佐々木 玄吾

畑作をいのちとせるか わが妻は
疲れも知らず 野菜を作る

豊作の野菜かかえて ご近所を
一軒々々 届けてつなぐ

初植えの赤と黄色の ミニトマト
朝夕もいで 隣近所へ

佐々木 文字

赤じその美味しいジュースが
できました
コロナ禍終り 子供会を待つ

釋尼 邦照

母となり
子等より受けた カーネーション
亡き母渡せず 悔いぞのこれり

はしやぎ声

セミ時雨をば かき消して
コロナ禍のうつぶん タネとばし

生きてこそ

無明の暗につつまれし
雪解け会うし 光みちびく

釋尼 陽照

温暖化 異常気象の 影響で
自然豪雨 災害多し

宣言下 コロナの終息

願ひつも 感染拡大
まだ収まらず

釋尼 眞教(久松真弓)

はがゆきは
求むるままの この籠に
水も届かぬ へだつる禍ぞ

よきひとの

仰せをかぶりて 歩まんと
他導無きかな くぐる道なり



柿 I (小作品)
山田 邦興 画

梵鐘

新型コロナウイルス流行は未だ収束の兆しが見えません。この間、光照寺でも感染対策の試みが様々になされました。その一環として護持会総会の法話がズームで流されました。御年九十歳を超えられた佐々木玄吾先生の法話を今年も聴聞でき有難いことでした。ただ、願いとすればお話を身近でお聞きしたかった。コロナさえが無ければ…。

今後はコロナ禍を契機として、聴聞、聞法が変化していくかもしれません。ですが、身近に息遣いや温もりを感じながらの臨場感溢れる集いも、眞宗の長い伝統として大切に残していきたいものです。

合掌 藤原自雄